

KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム 2023年度 自己点検・評価報告書

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>【外国語学部】 履修者数:92名(対象在学生の10.2%) 対象4科目の単位取得率:80.5%~93.2% (修了者の発生は来年度から)</p> <p>【GLA学部】 履修者数:6名(対象在学生の5.6%) 統計学Ⅱの単位取得率:60.0%(ただし履修者数5名)／その他4科目の単位取得率:77.5%~87.5% 修了者数:5名</p> <p>本プログラムは今年度後期より開始のため、来年度は年度初めのガイダンスでの周知も行き履修者の拡大を目指す。単位取得率はほとんどの科目で8割を超えており、学生は学習内容を順調に習得できている。統計学Ⅱには、履修判断に影響があると考えられる統計学Ⅰも含めた難易度の調整と接続を検討する。</p>
学修成果	<p>プログラム履修者を対象としたアンケートでは、回答した学生の8割以上が本プログラムで身につく5つの力について「身についた」「ある程度身についた」と回答しており、本プログラムが目指す学修成果をあげることができていると考えられる。</p> <p>9~10月に実施したため参考値ではあるが、全学生対象のアンケートにおけるプログラム履修者の回答では、「数理的な能力の入学後の変化実感」についてGLA学部生は80.0%が「大きく増えた」もしくは「増えた」と回答している一方、外国語学部生の同回答は27.3%にとどまっており、こちらの指標についても今後の推移を確認していく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>各科目の授業評価アンケート結果は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】 内容を「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答した学生の割合 基礎演習Ⅰ:84.8% 基礎演習Ⅱ:66.5%</p> <p>【GLA学部】 到達目標を達成できたかについて「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合 デジタル・シチズンシップ論:100% 数的思考法:96.4% データ・サイエンス概論:72.2% 統計学Ⅰ:83.3% 統計学Ⅱ:100%</p> <p>いずれの科目においても多くの学生がその内容を理解できていると考えられるが、基礎演習Ⅱやデータ・サイエンス概論については、必要な内容・水準は維持したうえでの難易度等の調整を検討する。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートにおいて、各科目の総合評価として「評価する」「ある程度評価する」と回答した学生の割合は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】 基礎演習Ⅰ:91.8% 基礎演習Ⅱ:85.9%</p> <p>【GLA学部】 デジタル・シチズンシップ論:97.0% 数的思考法:92.9% データ・サイエンス概論:91.7% 統計学Ⅰ:97.0% 統計学Ⅱ:100%</p> <p>いずれの科目も学生からの高い評価を得ているため、本プログラムの履修について他の学生にも推奨されることが期待される。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>今年度は学生用ポータルサイトと各授業における担当教員からの情報提供に加え、大学ホームページでの情報公開によりプログラムの周知を行った。来年度はこれらに加えて年度初めに実施するガイダンスでも周知を行い、履修者数の拡大を目指す。</p> <p>履修者数の推移は、本プログラムの改善・進化を担う組織である教養・基盤教育運営部会を中心に毎年度確認を行い、より効果的かつ学生にプログラムを履修する重要性が伝わる周知方法・内容について検討を行っていく。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは今年度より開始されたものであり、修了者の卒業は令和6年度以降に発生する見込みである。本学では全ての卒業生を対象とした「卒業生アンケート」を実施しているため、修了者の進路や活躍状況については、その活用により行う予定である。</p> <p>また、卒業生の就職先を中心とした企業の方を対象とした「企業アンケート」も実施しているため、企業等からの評価はその活用に加えて、必要に応じたインタビューの実施により把握することを予定している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>外部の情報・通信系企業の方より以下のご意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理・データサイエンス・AIと社会の関わりを体系的に学べる内容である。 ・実際に手を動かす演習により「データを読む、説明する、扱う」ことがなされ、基本的なデータ活用についても理解を深められる工夫がされている。 ・プログラムの一部に現状学生には馴染みの薄いソフトの利用が含まれ、操作に不安を感じる受講者がいることと、データの可視化・分析には便利な反面、学習後に当該ソフトを活用する機会が少ないことに懸念が残る。 ・日常的なデータ活用の機会を増やすため、より汎用的なツールで学ぶ、または学んだツールを活用する授業間連携の推進があると良い。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>「学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度」にも記載の通り、本プログラムを構成する科目は授業評価アンケートにおいていずれも高い評価を得ており、履修した学生は「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を感じていると考えられる。</p> <p>また、プログラム履修生を対象としたアンケートでは約7割の学生がこれらを「感じた」と回答している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業評価アンケートの「教員の説明は分かりやすかったか」という質問に「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】基礎演習Ⅰ：88.7% 基礎演習Ⅱ：85.0%</p> <p>【GLA学部】デジタル・シチズンシップ論：100% 数的思考法：100% データ・サイエンス概論：80.6% 統計学Ⅰ：89.4% 統計学Ⅱ：100%</p> <p>いずれの科目も概ね分かりやすい説明が行われているが、学生からの質問が多かった点などはその教授方法について随時見直しを行う。またプログラムや科目の内容は、常に社会の変化や技術発展をふまえたものとなるよう点検・見直しを行っていく。</p>